

京都国立博物館  
だより

二〇一六年  
七・八・九月号

# KYOTO NATIONAL MUSEUM

2016 July to September, vol.191

特集陳列

丹後の仏教美術

特集陳列

生誕300年

与謝蕪村





重要文化財 千手観音立像 京都・縁城寺

特集陳列

# 丹後の 仏教美術

平成28年7月26日(火)～9月11日(日)  
平成知新館 1F・1・2、2F・1・2

※2F展示室は8月28日(日)まで



行道面 毘沙門天  
京都・国分寺(宮津市)



金銅装筥 京都・縁城寺

海と山に囲まれ、明るく澄んだ風光に恵まれた土地——丹後。京都府北部に位置するこの地域は、日本海を挟んで大陸と近く、都との関係も密接で、古代より人と文物の交流が盛んでした。そのため、歴史を通じて、重要な寺社が営まれ、豊かな信仰や優れた宗教美術が育まれてきました。

京丹後市峰山町の縁城寺は、養老元年(七一七)にインドの僧・善無畏ぜんむいが創建したという伝承が残る真言宗の寺院です。本尊の千手観音立像(重要文化財)は、制作時期が十世紀にさかのぼると考えられるたいへん貴重な像で、平安時代中期の丹後地域に高度な仏教文化が根付いていたことを示しています。このたび、普段は秘仏として拝観できないこの本尊を特別に公開させていただきますことになりました。今回の展示の見どころのひとつは、この千手観音立像を中心とした、丹後地域の重要な仏像や神像です。数多く残る平安期の古像を通して、丹後の信仰と歴史の奥深さを多くの方に知っていただきたいと思えます。

また、彫刻のほか、この地の寺社に伝わ



等楽寺縁起 部分 京都・竹野神社

平成知新館  
名品ギャラリー

## 3F・1 陶磁

### 【日本と東洋のやきもの／古窯の美】

6月21日(火)～10月2日(日)

水や穀物を蓄えるための壺や甕、食器としての碗、皿、鉢など、やきものは生活の必需品として、古来より用いられています。特に鎌倉・室町時代、瀬戸・常滑・信楽・丹波・備前・越前といった、いわゆる六古窯で焼かれたやきものは、作為のない作りが素朴である一方で、いきいきとした力強さを感じさせてくれます。こうした日常で用いられてきたやきものは、近代の陶磁器研究や窯跡調査により、美術品として賞玩するようになり、今後は、こうした中世の古窯で焼かれたやきもの魅力を感じていただきます。



丹波壺 京都国立博物館

### 【日本出土の考古遺物】

6月21日(火)～10月2日(日)

## 2F・1 絵巻

### 【和歌と物語】

6月14日(火)～7月24日(日)

### 【特集陳列 丹後の仏教美術】

7月26日(火)～8月28日(日)

### 【若狭国と絵巻】

8月30日(火)～10月2日(日)

現在の福井県西部にあたる若狭国は、その名が『日本書紀』に初出するという、古い歴史をもつ地域です。隣の丹後国と同様に日本海に面していることから、外交上の重要性や製塩業・漁業の隆盛を背景として、京都とも密な関係を有していました。今回は修理後初公開となる

重要文化財《若狭国鎮



都国立博物館



成相寺参詣曼荼羅 京都・成相寺

重要文化財 紅玻璃阿弥陀像 京都・成相寺



重要文化財 如来立像 京都・金剛心院

が描かれており、成相寺が当地の信仰において重要な役割を果たしてきたことが窺えます。

さらに、丹後地域には、薬師信仰と結びついて、用明天皇の皇子とされる麻呂子親王が鬼退治をしたという伝説が語り継がれています。京丹後市・竹野神社に伝わる等楽寺縁起は、その伝説を描いた絵巻物ですが、単に見て楽しいだけでなく、丹後の浄土信仰に大きな影響を与えたとされる寛印という僧が後半に登場するなど、丹後の多種多様な宗教文化が詰まった作品となっています。

昨年には京都縦貫自動車道が全線開通し、市街とのアクセスがより便利になった丹後の地。これから、ますます多くの方が訪れることでしょう。この機会に、「海の京都」丹後に秘められた信仰と歴史のおもしろさを、ぜひ味わっていただきたいと思えます。

(井並林太郎)



- 《主な展示作品》 ※重文：重要文化財
- 重文 千手観音立像 京都・縁城寺
  - 大日如来坐像 京都・縁城寺
  - 重文 如来立像 京都・金剛心院
  - 重文 女神坐像 京都・板列八幡神社
  - 行道面 毘沙門天 京都・国分寺(宮津市)
  - 重文 紅玻璃阿弥陀像 京都・成相寺
  - 成相寺参詣曼荼羅 京都・成相寺
  - 等楽寺縁起 京都・竹野神社
  - 金銅装束 京都・縁城寺

守神人絵系図(本館蔵)を中心に、若狭国にまつわる絵巻物をご紹介します。自然豊かな風土に所縁をもったそれぞれの作品の来歴に、ぜひ思いを馳せてみてください。

2F-2 仏画

【密教図像の美―入魂の一発技―】  
6月14日(火)〜7月24日(日)

【特集陳列 丹後の仏教美術】  
7月26日(火)〜8月28日(日)

【浄土教信仰の名品】  
8月30日(火)〜10月2日(日)

2F-3 中世絵画

【描かれた動物たち】  
6月14日(火)〜7月18日(月・祝)

【狩野派の扇絵】  
7月20日(水)〜8月21日(日)

【特集陳列 生誕300年 与謝蕪村】  
8月23日(火)〜10月2日(日)

2F-4 近世絵画

【土佐光起と近世のやまと絵】  
6月14日(火)〜7月18日(月・祝)

【やまとなでしこ】

―江戸時代のアイドルたち―  
7月20日(水)〜8月21日(日)

肖像画の歴史は古く上代にまでさかのぼりますが、宗教的意味合いや文学的関心とは距離を置いた単独の女性像となると意外にもその登場は遅く、江戸時代になってからだと言われています。桃山時代から江戸時代初期にかけてさかんに制作された当世風俗画のうち、邸内遊楽図と呼ばれる群像表現がその基盤となり、独立したいわゆる「美人図」が誕生しました。

とはいえ、こうした女性像の性格はさまざまで、匿名性の強い理想像、実在の人物をモデルとしたもの、見立ての趣向が凝らされたものなど実に多彩です。鑑賞用の美人図とはいっても

重要文化財 若狭国鎮守神人絵系図 京

特集陳列

生誕三〇〇年

# 与謝蕪村

平成28年8月23日(火)～10月2日(日)

平成知新館(2F)3・4



生誕三百年という節目を記念して、画俳両道にわたる与謝蕪村(一七二六～一八一六)の魅力をご紹介します。

尾形光琳(二六五八～一七一六)が没し、伊藤若冲(一七一六～一八〇〇)が京都で生を受けたのと同じ年、与謝蕪村は生まれました。出生については不明な点が多いのですが、蕪村自身の言葉から摂津国毛馬村(現在の大阪市都島区)に生まれたことは確かです。二十歳前後で故郷を離れ江戸へ出ると、まもなく早野巴人(夜半亭・宗阿)の門をたたきます。巴人は、芭蕉の弟子であった其角・嵐雪に師事した俳人です。蕪村はここに住み込んで俳諧修行に励んだのでした。

蕪村は江戸で俳諧とともに画も学んでいたようですが、その師が誰であったのかなど、初期の画業についてはほとんどわかっていません。二十七歳の時に師・巴人が没すると、江戸を去って北関東・東北地方などを放浪したのち、三十五歳を過ぎてからようやく京都に居を定めました。上洛後の蕪村は当地に伝わる新旧のさまざまな絵画に触れ、それらを学ぶことで徐々に画技を磨き上げていきます。しかし、その後も丹後や讃岐へと赴いており、実際に京都の地に腰を落ち着けたのは、没するまでの十五年ほどの間にすぎません。同い年の若冲がほとんど京都を出なかつたのに比べると、その放浪ぶりは実に対照的です。

代表作と呼ばれる絵画作品のほとんどが晩年作であることからわかるように、こと絵画の制作に関して蕪村は晩成人でした。明・清時代の絵画にならつたいかにも中国風の作品や、当時の狩野派に学んだと思しい硬い線描を見せる比較的初期の作品に比べると、晩年作との大きな開きに驚かされ



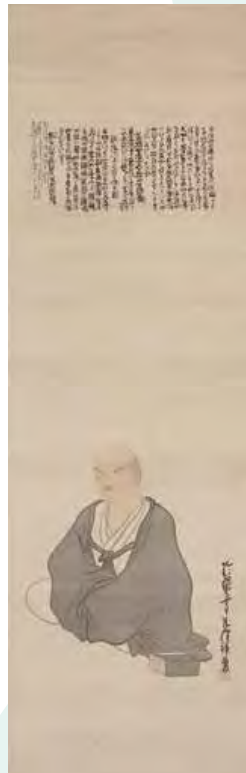
四季山水図のうち春、夏 与謝蕪村筆



重要美術品 山水図屏風 与謝蕪村筆 京都国立博物館



重要文化財 竹溪訪隠図 与謝蕪村筆



与謝蕪村像 呉春筆 京都国立博物館

宗教や文学の要素と無縁なわけではなく、そうした文化的背景がいつそう豊かな鑑賞の楽しみを与えてくれるのです。



大和美人図屏風 河鍋曉斎筆

## 【特集陳列】生誕300年 与謝蕪村

8月23日(火)～10月2日(日)

### 2F-5 中国絵画

#### 【中国の故事山水図】

6月14日(火)～7月18日(月・祝)

#### 【中国の草虫図】

7月20日(水)～8月21日(日)

#### 【江戸文人が憧れた中国絵画】

8月23日(火)～10月2日(日)

特集陳列「与謝蕪村」にあわせて、江戸時代の文人画家たちが制作の際に参考にした中国絵画を展示いたします。与謝蕪村をはじめとする文人たちは、市中で隠者の気風を失わず、気ままに生きる中国の文人に憧れ、彼らの書画を手本にしました。それらが、これまでの日本で鑑賞されてきた宋元絵画ではなく、市中に流通する淡彩を主体とした軽やかな、比較的新しい明清絵画であったことは特筆に値します。今回は、蕪村がしばしば古の画家の筆法に倣うと画中に記した「倣古」の作品や、作品の着想源になつたような画風の作品を集めてみました。

### 1F-1 彫刻

#### 【定朝様と慶派の仏像】

6月14日(火)～7月24日(日)

#### 【特集陳列】丹後の仏教美術

7月26日(火)～9月11日(日)

#### 【怒りのすがたの仏たち】

9月13日(火)～10月2日(日)

### 1F-2 特別展示室

### 【特集陳列】

ます。中国絵画を自己の様式へと見事に消化した山水図、あるいは俳諧的機知を盛り込んだ親しみやすく洒落な俳画は、蕪村芸術の真骨頂を示しているでしょう。特に俳画については、みずから「海内に並ぶ者」がいないといつてはばからないほどの独自の世界を築きました。

二部屋だけの小さな特集展示ですが、公開の機会が限られる個人所蔵の作品も展示されます。また、丹後時代の作品から讃岐滞在時の作品、さらには晩年作まで、各時期の作品が揃うのも見どころです。多岐にわたる蕪村作品を、コンパクトかつ濃密にお楽しみください。

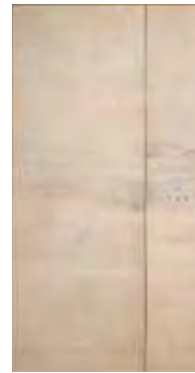
(福士雄也)



野馬図屏風 (右隻) 与謝蕪村筆 京都国立博物館



重要文化財 奥の細道図巻 (上巻部分) 与謝蕪村筆 京都国立博物館



《展示予定作品》

※重文：重要文化財、重美：重要美術品

与謝蕪村像 吳春筆 京都国立博物館

静舞図屏風 与謝蕪村筆

山水図屏風 与謝蕪村筆 京都国立博物館

野馬図屏風 与謝蕪村筆 京都国立博物館

四季山水図屏風 与謝蕪村筆

重美 山水図屏風 与謝蕪村筆 京都国立博物館

倣銭貢山水図 与謝蕪村筆 京都国立博物館

四季山水図 与謝蕪村筆

武者図画賛 与謝蕪村筆

重文 新宅画賛 与謝蕪村筆

重文 奥の細道図巻 与謝蕪村筆 京都国立博物館

山荘会友図 与謝蕪村筆

重文 竹溪訪隠図 与謝蕪村筆

徳川将軍家と京都の寺社  
— 知恩院を中心に —

6月14日(火)〜7月18日(月・祝)

【特集陳列】 丹後の仏教美術

7月26日(火)〜9月11日(日)

1F-3 書跡

【特集陳列】

徳川将軍家と京都の寺社

— 知恩院を中心に —

6月14日(火)〜7月18日(月・祝)

【古文書の世界】

7月20日(水)〜9月11日(日)

【古写経と字すがた】

9月13日(火)〜10月2日(日)

1F-4 染織

【武家の服飾】

6月14日(火)〜7月24日(日)

【芸能の装束】

7月27日(水)〜8月28日(日)

【染織の文様―秋の景物―】

8月31日(水)〜10月2日(日)

1F-5 金工

【武を飾る―中世の拵ししづかえ】

6月14日(火)〜8月7日(日)

【仏具のかがやき】

8月9日(火)〜10月2日(日)

1F-6 漆工

【根来塗と鎌倉彫】

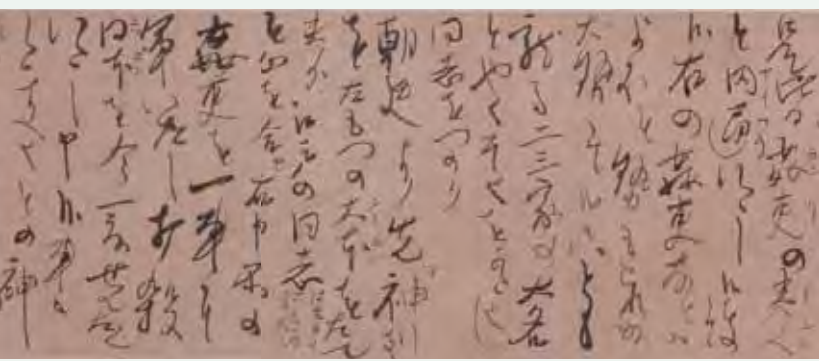
6月14日(火)〜7月24日(日)

【東アジアの螺鈿―山の漆と海の貝―】

7月26日(火)〜8月28日(日)

【江戸時代の蒔絵】

8月30日(火)〜10月2日(日)



女宛 京都国立博物館  
前が書かれた手紙です。



坂本龍馬湿板写真  
高知県立歴史民俗資料館

特別展覧会

没後一五〇年

# 坂本龍馬

平成28年10月15日(土)〜11月27日(日)

平成知新館 1F・2F

現在の日本で最も人気のある歴史上の人物のひとつが坂本龍馬です。彼が亡くなってから約百五十年。残された手紙や史料などから龍馬の事跡をたどります。

坂本龍馬は天保六年(一八三五)に土佐高知で郷土坂本八平の末子に生まれ、慶応三年(一八六七)に京都近江屋で暗殺者の凶刃にたおれました。龍馬の波乱の生涯は、歴史の研究書よりは小説や映画やドラマ、漫画によって広く知られています。とくに現在の龍馬イメージの形成に大きな影響を与えたのが、昭和三十年代後半に書かれた司馬遼太郎の小説『龍馬がゆく』であることは周知のとおりです。

しかしながら、明治時代に生きて龍馬を知っていた人々も、彼が歴史上重要な役割を担っていたことをよく理解していません。明治三十九年(一九〇六)の没後四十年祭には、すでに主

を通じて、龍馬は今も現代の日本人を魅了し続けているのです。

龍馬が関わった薩長同盟や大政奉還などの歴史的な事跡への評価は研究者によりその高低はあるでしょう。しかし今回の展覧会では残された彼の直筆の手紙に焦点をあて、その文章から坂本龍馬の心の内側に迫りたいと考えています。

京都国立博物館での坂本龍馬関係資料の大規模な展示は、平成十七年(二〇〇五)以来となります。近年あらたに発見された手紙や剣術免状など坂本龍馬史料を広く集め、あわせて幕末維新期の瓦版や錦絵や同時代の美術作品をご紹介します。龍馬の生きた幕末という時代の雰囲気を感じていただければ幸いです。

(宮川禎二)



重要文化財 梅椿図(血染の掛軸)  
板倉槐堂筆 京都国立博物館



刀 銘吉行 坂本龍馬佩用 京都国立博物館



ペリー来航図 部分



重要文化財 三徳 坂本龍馬所用  
京都国立博物館



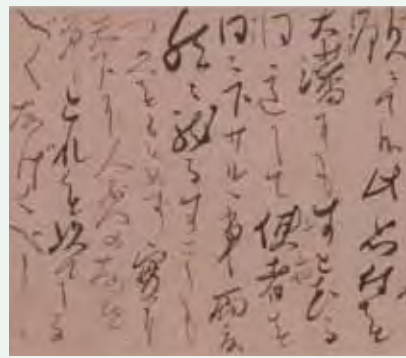
海獣葡萄鏡 坂本龍馬所用  
京都国立博物館



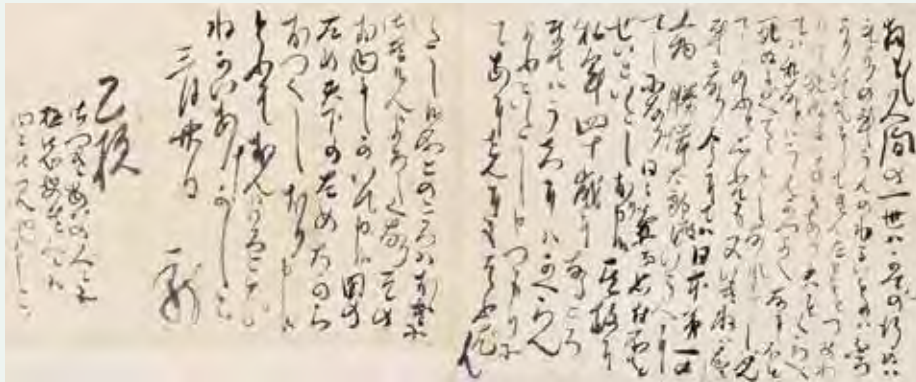
重要文化財 龍馬書簡 慶応二年十二月四日 坂本乙女宛 部分 京都国立博物館

慶応二年（1866）、伏見寺田屋で襲われた龍馬は西郷らの勧めで鹿児島へ向かい、霧島山麓で湯治をしました。

この手紙はその際に妻おりょうと登った高千穂峰の様子を描いたものです。



重要文化財 龍馬書簡 文久三年六月二十九日 坂本乙女宛 有名な「日本を今一度せんたくいたし申候事」という一紙



重要文化財 龍馬書簡 文久三年三月二十日 坂本乙女宛 京都国立博物館

文久二年（1862）の三月、土佐を出た龍馬は諸国を経たのち江戸で旗本勝海舟の弟子となり、海軍の修行を行うこととなりますが、一年後のこの手紙には「国のため天下のため力をつくす」と書いています。

重要な手紙や遺品が集められ、京都東山で展示公開されています。その内容は現代の龍馬展と通じるもので、当時から龍馬の手紙や遺品が大事にされ、今日に伝えられたことがわかります。龍馬の手紙からは、自由な発想や先見性・行動力・交友の広さ・家族への愛情・あふれるユーモアが感じられます。龍馬の手紙を読んだならば、作家は小説やドラマを作りたくなることでしょう。そうして生み出された小説などの媒体

## よみもの

# 田能村竹田の見聞きした書跡

京都国立博物館主任研究員

羽田 聡

いまから二、三年前、江戸時代を代表する文人画家・田能村竹田（一七七七〜一八三五）の作品の寄贈をうけるにあたり、絵画担当者に頼まれ、画上の賛について調べたことがある。大分県教育委員会が発行した『田能村竹田 資料集著述篇』をペラペラとめくっていると、お目当ての賛のほか、「屠赤瓊々録」とよばれる備忘録、および日記が目にとまった。

たとえば、橋本経亮（一七五五〜一八〇五）の随筆『梅窓筆記』に「一品経和歌懐紙」（国宝、京都国立博物館蔵）の伝来に関する話があるように、近世の著述には作品の来歴にまつわる記載がまま見られるため、期待まじりにこれらを読んでみた。すると、備忘録には、伊丹のさる旧家が所蔵していた下条兵庫助あての武田晴信書状、唐招提寺から流出した処分状のほか、色定法師一筆一切経の奥書などが写されており、書跡の担当として「竹田さん、ありがとう」と思わずつぶやく。「これは当たりだ」と確信し、日記のほうにも目を通すと、文政六年（一八二三）四月十六日条につきのような記事をつみつけた。

席上二京客アリ、三品氏ト云「三品伊賀守金道ノ族、小石玄瑞ノ近隣」、其人曰、一人京人西ノ洞院時慶卿ノ日記ヲ蔵ス、慶長ヨリ寛永ニ及フ処々残闕アリ、所存十九卷ナリ「時二慶卿ノ孫時名卿アリ、此卿ヲ風月ト称ス、其子放蕩ノニテ、多ク旧記ヲ売却ス、此日記モ其内ナリト云フ」、

西洞院時慶（一五五二〜一六三九）の日記『時慶記』について、竹田と懇意であった大坂の田中鶴翁の屋敷で同席した、三品金道なる者が語ったところをしるす。金道は代々、西洞院夷川に住する刀鍛冶で、釜座夷川に居を構えた医師・小石元瑞とはたしかにご近所だ。彼が言うには、京都のある人が慶長から寛永年間にいたる時慶の日記、十九卷分を所蔵している。それらは時慶の子孫であり、風月と号した時名（一七三〇〜九八）の子が放蕩のかぎりを尽くしたため、売却した家記の一部なのだという。

現在、『時慶記』は、自筆本二十冊が天理大学附属天理図書館と宗教法人本願寺とに分蔵され、徐々に活字化が進んでいる。後者には、天正十九年（一五九一）より寛永六年（一六三九）にいたる十九冊があり、これは竹田が金道から伝え聞いた分に相当する可能性がたかい。とするなら、西洞院家から流出した時期、さらには経緯を知りうる同時代人の貴重な証言といえよう。ただ、残念なのは、日記を所蔵する「一人京人」をして、「伊達政宗や加藤清正が在京中、この人の家に投宿したことをしめす書状がある」と追記するのだが、その人物を特定しきれなかったことである。

## 土曜講座

7月2日「家康ゆかりの女性と知恩院 一母・於大と千姫」\*

佛教学部歴史学教授・総本山知恩院史料編纂所編纂員 今堀太逸氏

7月9日「知恩院所蔵の古文書手鑑」

京都国立博物館主任研究員 羽田聡

7月16日「御所解文様を読みとく—きものに隠された物語—」

京都国立博物館教育室長 山川暁

7月23日「廻船問屋の土蔵が伝える木・竹・漆の文化財」

京都国立博物館主任研究員 永島明子

8月6日「丹後の寺社縁起」\*\*

京丹後市役所商工観光部主任 小山元孝氏

8月20日「中世丹後の人と絵画—大陸の風、みやこの風—」\*\*

京都国立博物館研究員 井並林太郎

8月27日「丹後のみほとけたち」\*\*

京都国立博物館連携協力室長 淺湫毅

9月3日「中世陶器の魅力」

京都国立博物館研究員 降矢哲男

9月10日「描かれた『奥の細道』—蕪村から小野竹喬まで—」\*\*

静岡県立美術館館長・東京大学名誉教授 芳賀徹氏

9月17日「文化財の自然科学的研究と新しい技術」

京都国立博物館研究員 池田素子

9月24日「梵鐘—今日もお寺の鐘がなる」

京都国立博物館企画室長 伊藤信二

\*…特集陳列「徳川将軍家と京都の寺社」関連講座 \*\*…特集陳列「丹後の仏教美術」関連講座

\*\*\*…特集陳列「生誕300年 与謝蕪村」関連講座

※平成知新館 講堂にて、午後1時30分～3時に開催。定員200名、聴講無料（ただし観覧券等が必要）。

※当日12時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。

## イベント

《京都・らくご博物館 夏》

日時：8月5日(日) 18:00 開場 18:30 開演

会場：平成知新館 講堂（地下1階）

出演：桂慶治朗 桂ひろば 桂米輔 中入 桂雀喜 桂米團治

入場料：3100円(税込)/キャンパスメンバーズ2500円(税込) (全席指定・

平成知新館名品ギャラリー観覧券付

※チケットご希望の方はお電話、またはWEBよりお申し込みください。

申し込み先：お電話/博物館事業推進係 075-531-7504(月～金の10～12時・13～17時に受付 \*祝日は除く) WEB/ <http://www.kyohaku.go.jp> らくご博物館【夏】申し込み画面

## これからの展覧会

◆特別展覧会 没後150年 坂本龍馬

2016年10月15日(土)～11月27日(日)

◆特集陳列 皇室の御寺 泉涌寺

2016年12月13日(火)～2017年2月5日(日)

◆新春特集陳列 とりづくし—干支を愛でる—

2016年12月13日(火)～2017年1月15日(日)

◆特集陳列 生誕300年 伊藤若冲

2016年12月13日(火)～2017年1月15日(日)

## 国立博物館の展覧会

【東京国立博物館】

特別展「古代ギリシャ—時空を超えた旅—」

2016年6月21日(火)～9月19日(月・祝)

【奈良国立博物館】

特別展「忍性—救済に捧げた生涯—」

2016年7月23日(土)～9月19日(月・祝)

【九州国立博物館】

特別展「東山魁夷 自然と人、そして町」

2016年7月16日(土)～8月28日(日)

## ◆ 明治古都館休館のお知らせ ◆

京都国立博物館では、埋蔵文化財調査等のため、明治古都館を当分の間休館することになりました。それに伴い、明治古都館休館中は、特別展覧会を平成知新館にて開催いたします。特別展覧会の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止することとなりますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【今後の名品ギャラリー休止の予定】

名品ギャラリー休止期間：10月4日(火)～12月11日(日)  
庭園のみ開館：10月4日(火)～10月13日(木)

## ご利用案内

【開館時間】 9:30～17:00

\*入館は閉館の30分前まで

【観覧料】 一般 520円(410円)

大学生 260円(210円)

\*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上の方は無料

\* ( )内は団体20名以上

【休館日】 月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)

## アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統、D1のりばより100号系統にて博物館・三十三間堂下車すぐ  
プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分

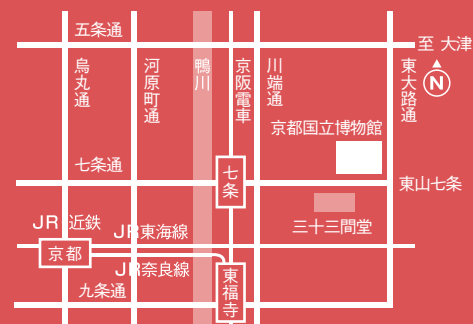
近鉄電車=丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分

京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分

阪急電車=河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分

駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

\*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒は92円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町 527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

ホームページ <http://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 2016年7月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 株式会社  
ライブアートブックス

京都国立博物館  
KYOTO NATIONAL MUSEUM